

単元名 8 自分を見つめる ー構成や描写を工夫して書こう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 文章を読み返し、分かりやすく印象深いものになっているかを推敲することができる。
 (2) 自分の伝えたい事柄について、効果的な表現を工夫することができる。
 (3) 文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとする。

標準的な展開例

10210305_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 随筆に取り上げたい体験を選ぶ。 ○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★随筆に取り上げたい体験を思い出し、題材を考えよう。 ○ 今までの体験を振り返る。</p> <p>○ 思い出した体験を基に、随筆の題材を考える。</p> <p>○ 随筆の題材を選ぶ。</p> <p>2 随筆の構成と、表現の工夫を考える。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★随筆の構成と表現の工夫を考えよう。 ○ 具体的なエピソードを書き出す。</p> <p>○ 構成を考える。</p> <p>○ 自分の考えや思いを表現する工夫を考える。</p> <p>3 構成や表現を工夫して、随筆を書く。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★構成や表現を工夫して、随筆を書こう。 ○ 構成や表現を工夫して、600字から800字程度で随筆の下書きをする。</p> <p>4 随筆を読み返し、分かりやすく印象深いものになっているかを考えて、推敲する。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★下書きを読み合い、推敲しよう。 ○ 前時に書いた文章について推敲する。</p> <p>○ グループで読み合い、感想や意見を交換する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の見通し」(p. 220)を読み、学習の見通しをもたせる。 ・「根拠を示して説明しよう」(p. 138)や「助言を自分の文章に生かそう」(p. 186)で、読み手を意識して文章を書く工夫を考えたことを想起させる。 ・忘れられない体験や成長を感じた体験、自分にとって意味をもつ体験など、様々な視点で考えさせる。 ・「発想を広げる」(p. 272)を参考にしてもよい。 ・「体験から思い出す」(p. 220)や、「テーマから思い出す」(p. 221)を参考にさせるとよい。 【評】随筆の題材を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・「知多の友」を使用する。 ・書き出した中から最も伝えたいことを選ばせる。 ・次の二つの視点からエピソードを掘り下げていくとよい。 ①エピソードをより詳しく思い出す(事実)。 ②エピソードの意味を見つめ直す・見渡す(意味づけ)。 ・「材料を書き出す」(p. 221)を参考に、「事実」と「意味づけ」に分けて書かせるとよい。 ・付箋に書き出させるとよい。 ・導入では「印象的な書きだし」を、体験の説明では「読み手に状況がイメージできる具体的な描写」を意識し、最後に「自分にとっての意味、価値」を書くことを伝える。 ・「構成を考える」(p. 221)を参考にして書く順序を考えさせる。 ・「知多の友」を使用する。 【評】文章の構成を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・「書きだしを工夫する」「印象に残る随筆を書くには」(p. 222)を参考にさせる。 ・「知多の友」を使用する。 ・前時の学習を生かして、構成や表現に注意して書かせる。 ・「知多の友」を使用する。 ・「随筆の例」(p. 222)を参考にさせる。 【評】構成や表現を工夫して書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・「文章の推敲・原稿用紙の使い方」(p. 275)を参考にさせる。 【評】分かりやすく印象深い表現になるように推敲する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- 推敲で改めた点を直して清書をする。
- 学習を振り返り、考えたことをまとめる。

- ・書き方に工夫のされているところなどに線を引かせる。

- ・「知多の友」を使用する。

【 備 考 】

表現に込められた書き手などの思いやものの見方を理解することは、大事なことである。表現の工夫とは、単なる飾りではない。表現を工夫することによって、いつそう的確に描き出せたり、より効果的に伝わるようになったりした書き手や話し手の思いやものの見方などから、表現効果なども踏まえながら自分の考えをもてるようにさせたい。

また、「少年の日の思い出」は、ものの見方、感じ方、生き方の違いについて、じっくり考えさせたい作品である。これは道徳のC－（11）正義、公正・公平にあたり、これを機会に差別や偏見のないものの見方をしようとする気持ちを高めたい。